



ヘンリー・ボン・シーボルト著  
魯國木工記事



1643





414  
A4509



供

大蔵卿大隈重信公閣下之一覽

魯國木工記事

魯細亜国ノ全圖版ヲ五分シテ其二ハ森林之ヲ蔽フ蓋シ此中ニ  
貯蓄セル財宝ノ洪大ナル又思フヘキナリ就中ク王室ニ属セル  
山林ヨリ生スル処ノ富ハ既ニ千八百六十六年ニ於テスラ五百  
十一万九千四ツルニ達シ其後益々増加スルノ実アルヲ能ク  
世人ノ熟知スル所ナリ且ツ魯国全民ノ中年間絶エヌ木ヲ燃ス  
ノ家ハ無量千二百万戸ノ多キニ居リ其代價ハ曾テ一億八百万  
ルウブツヲ下ラス加フルニ毎年新タニ木ヲ以テ築造サル、屋  
敷ハ十四万棟ヲ越エ其價ハ概テ二千万ルウブツナリ其外年

大正十一年四月

大隈



々木ヲ以テ製造スル処、大小船舶ハ其数三万五千艘以上ニシ  
テ其木價殆ント千百万ルウブルニ近カシト云フ然レモ其外国  
ニ輸出スル処尙ホ未タ盛大ノ点ニ達セズ千八百七十三年ノ如  
キ其額數僅クニ七百万ルウブルニ過キサリキ殊ニ木ヲ以テ製  
造シタル小器財ノ<sup>外</sup>國ニ知ラル、<sup>其</sup>甚タ少ナシ蓋シ此等ハ皆  
ナ貧民ノ手製ニ属シテ其得ル処ノ割合モ善ク亦格別ノ勞力ヲ  
要セサル者ナリ茲ニ昨今魯細亞木工ノ報告昏ヲ閱スルニ種々  
木製ノ器財多キ中年々製造スル木匙ノ數千万個及ニ木履ノ數  
千五百万足ナリ此等ハ皆ナ貧民ノ製作ニ係リテ其内幾分ハ魯  
細亞ノ自用ニ充ツルト虫氏又幾分ハ之ヲ外國ニ輸出スルナリ  
竊クニ業スルニ我日本ニ於テモ此業ノ進達スル既ニ久シク其  
工夫ノ如キモ益々精練ヲ加エ今日ニ至テハ恐クハ他國ノ工夫  
ニ劣ラザル可キヲ信スルニ足レリ即チ此業ハ實ニ我日本ニ取

ニ一ノ大切物ニシテ畢竟魯細亞及ニ他國ノ例ニ習ヒ貧民ノ專  
職ニ帰着スヘシ之ニ依リ今後彼木履<sup>制</sup>ノ<sup>日</sup>以<sup>テ</sup>我<sup>カ</sup>以<sup>テ</sup>我<sup>カ</sup>以來ノ下駄ニ  
代用スルノ一事ハ必ス貧民ノ多ク<sup>タ</sup>ニ<sup>ク</sup>欠ク可ラサル所ナルヘシ  
彼日耳曼魯細亞仏蘭西比耳義阿蘭陀等ノ諸國ニ於テモ當ニ貧  
民ニ限ラス一般ニ農民ハ彼高價ナル靴ノ代リニ木履ヲ穿ツヲ  
見ル就中々阿蘭陀比耳義及ニ仏蘭西ニ於テハ上等社會ノ人位  
ト虫氏同シク木履ヲ用キ唯其異ナル処ハ製造ノ美良ナルト之  
ニ添シタルノミナリ蓋シ木履ノ靴ニ優ル処多ト虫氏最モ嚴寒  
ノ折ニハ其功著シク又之ヲ以テ我日本從來ノ下駄ニ比スレハ  
當ニ經濟上ノ利アルノミナラス又健固上ニ取テモ益スル処多  
シ故ニ今此ヲ製スルノ方法ヲ以テ我國ニ傳エルハ則チ其下  
駄ヲ製スルヨリ尙ホ容易ニシテ且ツ産直ニ出来スルヲ以テ幾  
千人ノ為ニ職業ヲ興エ且ツ健固ヲ益スル処アルヘキヲ怡モ魯



ラ文那ニ於テ藁工ノ方法ヲ採用セシニ異ナルヲナカルヘシ尚  
ホ惟ヒラク或ハ此品ヲ製シテ之ヲ外國ニ輸出セハ又得ル処大  
ナルベシト謹言

東京千八百七十九年

ヘンリトフォン、レーボルト



